

丸の内プラチナ大学「逆参勤交代」京丹後市研修旅行記（2021.11.26～28）

2021年11月、丸の内プラチナ大学「逆参勤交代コース」の京丹後市ツアーに参加した。この大学は三菱総合研究所と三菱地所が主催する市民大学で、本コースは働き方改革と地方創生を同時に実現する構想を実践するもので、都心で働く社会人が少子高齢化や人口減少に悩む地方都市を訪問し、その歴史・伝統・生活・産業などを観察し、地方創生プランを練り上げて地方自治体の組長に提案する内容だ。

さて2020年はコロナ禍で地方訪問はなかったが、今年は2019年と同様3つの地方都市訪問が企画された。長野県小諸市、静岡県浜松市と京都府京丹後市である。京丹後は健康長寿と冬の松葉蟹で有名だ。私は学生時代を京都で過ごしたが京丹後を訪問したことがなかったのでこのコースに参加した。

なお松田智生氏（三菱総研主幹）著の「明るい逆参勤交代が日本を変える」に逆参勤交代と地方創生について詳しい解説がある。

11/26（金）

新大阪駅 9:04 発の「特急 こうのとり 3号」に乗車、豊岡駅で乗換え、京丹後鉄道にて網野駅に12:40に到着した。大阪からの所用時間3時間36分だ。東京から5時間半は優にかかる。かつて長崎県壱岐市を訪問したが福岡空港から博多港経由壱岐島までジェットバス（高速艇）で4時間だった。東京から最も時間のかかる地方といわれているようだ。（写真参照）

14:00 3台の市役所職員の小型自動車で海岸近くの市の分庁舎を訪問した。14時半から2階会議室で受講生と大学関係者と市役所職員が一同に会し自己紹介があった。その後本コースの予定が説明されたあと、地域活性化で活躍している長瀬啓二氏（Tangonian 代表）から観光事業として「豊かな働きか暮らし方のまちづくり」の説明を受けた。

この分庁舎の1階会議室で松本重太郎翁の顕彰展示会が開催されていた。NHK大河ドラマで渋沢栄一を描いた「青天を衝け」が好評だが、松本は西の渋沢栄一といわれた。城山三郎の伝記小説「気張る男」のモデルである。

この本を帰京後読んだが、波乱万丈の人生で大変面白かった。松本も渋沢と同じく明治の大実業家で、西日本の鉄道網と銀行等の発展に大きな功績があった。残念ながら晩年紡績会社の経営悪化で殆どの財産を失った。尚孫の松本重治氏はジャーナリストとして有名だ。（写真参照）



16:00 海辺に点在する古墳を見学した。日本海を望む海岸と夕暮れの風景は絶景であったが、風と雨が激しくなってきたので早々に退散した。

17:00 丹後ちりめんの製造工場を訪問した。天皇陛下御夫妻の訪問記念写真もある伝統ある会社だった。京丹後市の伝統産業はちりめん、その生産技術を活かして最近では自動車部品工場も集積しているという。

18:00 京丹後の中心地峰山のホテル「KISSUI EN」に到着した。夕食は地元の野菜と海産物の料理と美味しいお酒を堪能した。

最上階の風呂は広かったが生憎雨が厳しくなってきた。その日は早く寝たが、夜中窓にあたる石粒の音に驚いた。翌朝それが雹（氷の粒）であるとわかった。京丹後は日本海特有の気候で気温が急に下がるそうだ。



11/27(土)

6時起床して朝風呂に入る。8時半にホテルを出て久里浜キャンプ場に行った。当初観光名所のカブト山に登って久里浜観光視察予定だったが、雨模様のためキャンプ場に変更した。このキャンプ場は夏には大変な人出があるそうだ。（写真参照）



10:00 キャンプ場近くの公民館（改築中）を訪問した。ここで久里浜地区のシェアオフィス構想の説明があった。海浜での遊び（水泳 ヨット 釣り）と仕事のできるスペースがあり、ワーケーション活用方法について熱のある議論があった。

11:30 酒造工場兼販売所に行った。酒作りには水と米と気候が大事とのことだ。1000年以上の歴史があるので濁り酒や海産物も販売されていた。酒まんじゅう

も美味しかった。ここで野村克也氏のポスターを見つけた。野村さんは京丹後出身だった。（写真参照）

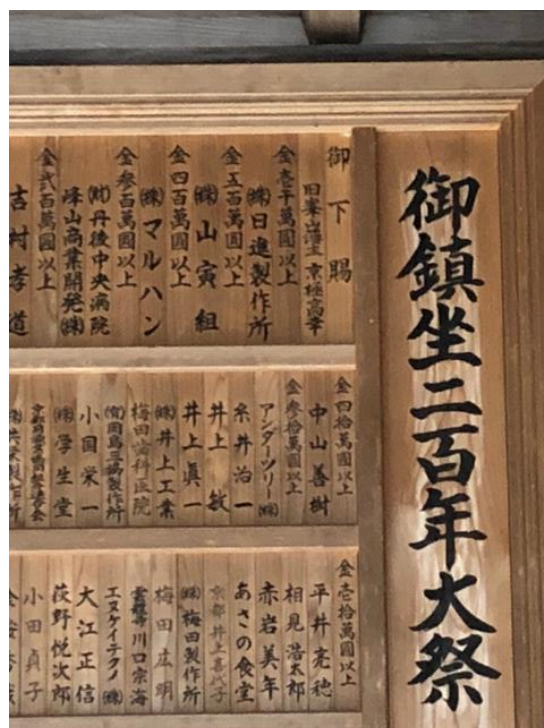


ここで移住促進のアイデアを聞いた。古民家や空き家バンクの活用は他の地方都市でも聞くアイデアだが、まちまち案内所は町内会の子供や老人を巻き込んだ大掛かりなもので、旧町村への水平展開が期待された。（注；京丹後市は 2004 年の 6 町が合併した新しい市である）



3 時頃峯山神社に参拝した。市の中心地峰山は明治大正昭和の前半までは「丹後ちりめん」で栄えた。最盛期には9 3 0 万丹もの絹生地を生産していた。京織物の材料供給基地だった。最盛期には京都から舞妓や芸者も移り住んでいたそう。豪商や実業家が神社に多額の奉納をしていた。パチンコ日本1 のマルハンのルーツも京丹後だった。

ところでこの神社は猫を祭っていた。ちりめん工場ではネズミが大敵で猫がその防御で大切にされたそうだ。猫をモチーフにした面白い神社である。



2日目の夕食は生涯忘れられないものだった。豪華で美味しい松葉カニのしゃぶしゃぶ料理だった。大きな皿にカニが4杯、それが3人席3卓のテーブルにそれぞれ置かれた。これまで経験したことがない量で食べきれるか心配したが杞憂だった。その美味なることは表現できない。日本酒と仲間たちとの会話が一層料理を際立たせてくれた。わが人生至福のひとつであった。



11/28（日）

9:10 最終日であり市長舎にて地方創生プランの作成作業に入った。午後に中川市長に発表するので作成時限は11時半までだった。私はこの講座参加が3回目であり事前準備もしていたので10時半頃には完成した。ランチ時間も含めて1時間以上余裕あったので市庁舎周辺を散策した。長閑な田園と河川のある美しい街だった。空気も澄んでいて散歩に最高だった(写真参照)

しかし日曜日なので飲食店はほぼ閉店だったので飲食店でのランチは諦めた。結局ニシガキショッピングセンターでご弁当を買って済ませた。



13:00 受講生から市長に地方創生プランが発表された。プランのルールは主語が自分であることだった。これが松田主幹の唱える逆参勤交代講座のモットーである。受講生からの提案はどれも大変素晴らしいものだったが、紙面の関係で2つだけ紹介したい。

MRI		株式会社三菱総合研究所	
地方創生プラン 名前：長谷川 健④ 所属団体名：プラチナ構想ネットワーク			
What：何をするか 〇〇プロジェクト	「ゆるくてかたい 絆」プロジェクト		
Why：なぜするか その理由 なぜこれが良いのか	他地域の人との多様な関わり方のうち、絆のゆるさ(例：高頻度の観光客、ふるさと納税の大ファンなど)・かたさ(長期滞在者、移住検討者、移住者など)の観点で寛容である京丹後の特性を活かし、「関わる人」を増やす。これをきっかけに、京丹後の様々な課題(例：域内交通、来訪交通、縦割り行政、伝統産業の展開など)の解決につなげる。		
Who：私は何を担うか 社長、営業、広報	広報宣伝部 ゆるい絆担当部長		
Whom：誰を対象に ターゲット像	古都 京都(京都市)から海の京都(京丹後)へのショートトリップの提案 (対象：東京・日本全国・海外から関西圏への観光客)		
How： どのように実現するか	一般的な観光資源(例：間人ガニ、丹後ちりめん、海水浴、ジオパークなど)だけでなく、多様で多層な観光資源(温泉、野菜、コミュニティ、神社、狛猫、個性ある酒蔵群、駅カフェなど)を発信していく。 また、関西周遊観光の具体的なプランを提案し(関西圏で3泊4日～4泊5日程度)、潜在的「関わる人」にアピールする。		

MRI		株式会社三菱総合研究所	
地方創生プラン 名前：田口真司 ⑩ 所属団体名：エコツツエリア協会			
What：何をするか 〇〇プロジェクト	越境型「学び」と「交流」		
Why：なぜするか その理由 なぜこれが良いのか	今回の滞りで、京丹後市が持つアセット(食文化、織物、カニ等)が多く、さらにはコミュニティ基盤が整っていることが分かりました。そして、更なる京丹後市の発展や他地域への紹介をすべく、定期的に他地域との繋がりと、これまで以上に活動に厚みが増すと考えます。		
Who：私は何を担うか 社長、営業、広報	コンテンツ企画、運営		
Whom：誰を対象に ターゲット像	・京丹後市内で活動しているアクティブな人材 ・京丹後市在住、出身の学生や生徒 ・全国でまちづくりを行っている人たち		
How： どのように実現するか	①定期的なイベント開催(他地域との繋がり) ②京丹後市版「丸の内プラチナ大学」実施(地元住民向け) ③「丸の内プラチナ大学」京丹後市分校(首都圏人材向け)		

私は中高年向けのセカンドホーム構想（第2の長期滞在先）を提案した。2019年の埼玉県秩父市と長崎県壱岐市でも同様の提案をした。京丹後市も自然と歴史遺産に恵まれており地方創生のキラークンテンツが多い。最近京都から新しい高速道路が完成したので車なら2時間で当地に着くそう。散策、釣り、ゴルフ、クルージングなど中高年にとっても十分楽しめそう。

15:50 現地解散、16:27 峰山駅発の特急「京都たんごりレー6号」で京都に帰った。

(2021. 12. 31 記す)